

小山市事務事業評価シート

令和3年度版

No. 9

1. 基本情報			
<1> 事業・業務名	健康マイレージ事業		<2> 事業・業務の別
<3> 選定基準	② 事業の範囲や経費等について、市の裁量の余地がある事業		事業
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	7 市民が生き生き 安全・安心で健康なくらしづくり	<4> 継続業務・新規業務の別
	中項目	7-5 みんなが健康長寿で安心できる暮らし	継続業務
	小項目	7-5-1 保健・健康づくり・地域医療	<6> 担当部(局)
	施策		保健福祉部
			<7> 担当所属
			健康増進課
			<8> 担当係等
			健康増進係
<9> 根拠法令・計画等	小山市総合計画基本計画	<10> 関連・類似事業	なし
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	4 款 1 項 2 目
<15> 実施手法	直営	「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -

<16> 事業・業務の概要
市全体の健康づくりの気運を高め、市民が主体的・継続的に健康づくりに取り組めるよう、検診受診、ウォーキング、市主催イベントへの参加等、個々人の健康づくりや生きがいづくりへの取組をポイント化し、規定のポイントを貯めた者に対し、転換品を付与する。

目的 <17> 事業・業務の目的
市民自らの主体的な健康づくりの取組を支援し、地域による健康づくり活動を推進する。

目的 <18> 事業・業務の対象
16歳以上の市民

手段 <19> 令和2年度の活動内容
本庁、出張所、関係機関等にパンフレットを設置、またポイント付与対象事業実施時にパンフレットを配布し、事業の周知を図った。

手段 <20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度
			計画	実績	計画	実績	計画	計画
	パンフレット配布枚数	件	20,000	19,794	20,000	13,110	20,000	20,000

成果 <21> 事業・業務の成果
事業参加者を増やすことで市民の健康づくりへの意識向上を図り、地域による健康づくりを推進する。

成果 <22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度
			計画	実績	計画	実績	計画	計画
	参加人数	人	450	395	300	240	350	400

資源 <23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績		単位	令和元年度		令和2年度		令和3年度	令和4年度
				計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	計画(予算)
			千円	3,633	3,062	3,657	2,962	2,945	3,340
	事業費等		千円	1,500	929	1,517	822	805	1,200
	財源内訳	国・県補助金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
一般財源		千円	1,500	929	1,517	822	805	1,200	
人件費		千円	2,133	2,133	2,140	2,140	2,140	2,140	
正職員		千円 × 人役	7,108 × 0.3	7,108 × 0.3	7,132 × 0.3	7,132 × 0.3	7,132 × 0.3	7,132 × 0.3	
他の職員			×	×	×	×	×	×	

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1. 妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1. 妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	2. 変わらずにある
	有効性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1. 妥当である
		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1. 向上の余地はある
	効率性	<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいのか?	2. 中位
		<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?	1. 向上の余地はある
	公平性	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	2. 検討は困難である
		<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	4. 該当しない
	<33> 総合評価	2. 改善の余地はある	理由 コロナ渦の中、各種イベントの中止によりポイント付与対象事業の確保は困難であるが、本事業が市民の主体的・継続的な健康づくりの支援であることを踏まえ、市民個々人の健康づくりの実績を記録できる「開運健康手帳」の活用によるポイント付与を充実し、イベント参加によらない事業参加者数の増加を図っていく必要がある。

4. Action - 改善 -

事業の改善 <34> 事業の課題 事業の改善点
本事業の最大の課題は参加者数の増加であり、以下の取組により課題の改善を目指す。
①事業の認知度を更に上げ応募数を増やすために、マイレージサポート店・一般企業・医療機関等にも協力を仰ぎ、多くの市民の目に触れるようPRを強化する。
②ポイント対象事業について「栃木県健康ポイント事業」と連携することでポイント獲得の機会を増やし、参加者数の増加を図る。
③令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う対象事業の中止により、イベント参加によるポイント獲得が難しく、参加者数が減少したことから、令和3年度以降は、健診等の受診や開運健康手帳によるポイント獲得について周知を強化する。

5. Plan - 計画 -

事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3. 現状維持	理由 市民自らの主体的な健康づくりを広めるためには、市民の健康づくりへの意識向上、及び取組への支援が必要である。本事業は、インセンティブの付与により、市民の健康づくりへのきっかけづくり、及び取組の継続に効果的に寄与するものであり、今後も継続することが妥当である。
	<36> 2次評価	所管部長	3. 現状維持	理由 少子高齢化が進行する現在、医療費の増加を逓減し、市民の生活の質(QOL)の向上を図るには、健康寿命の延伸が最大の課題である。本事業は、市民各自の継続した健康づくりを支援するものであり、健康寿命の延伸に十分寄与することが見込まれ、継続実施が望ましい。なお、今後は、事業参加者数の増加を図るのみでなく、内容についても常に改善を目指す必要がある。
事業の計画	<37> 実施計画・今後の方針			本庁、出張所、関係機関等へパンフレットを設置、また検診やイベント等のポイント付与対象事業実施時にパンフレットを配布する等により市民への事業の周知・普及を図る。
	<38> 活動・成果目標			パンフレットの配布等により事業の周知を行い、参加者数の増加を図る。